

観自在

弘長寺寺報
第三十八号
平成三十一年一月(年
二回発行)

(仏教の戒) 不妄語戒 (嘘をつくべからず)

あけましておめでどうございませ
弘長寺住職 森田裕光

仏教徒が護るべき十の戒(いましめ)があります。その四番目に不妄語戒が出て参ります。

でも確かに嘘をつかず正直であるべきかもしれませんが、どうしても「つかなくてならぬ嘘」が存在するの事も事実です。病床にある家族に、末期ガンで長くて余命三ヶ月だって、などと正直にはとても言えません。

今世の中は、「ついてはならぬ嘘」、如何に人をだますかという行為が蔓延しています。

大がかりな六十三億円の積水ハウス詐欺もそうですが、オレオレ詐欺だってほんの少し減少傾向にあるものの未だに膨大な数です。詐欺師にとって、正常な思考回路が衰えた老人をだますことなど朝飯前でしょう。

世界の国同士もしかし、我が国の総理もしかしです。腹心の友である加計さんの悲願、獣医学部創設も、直接手をかけていなくとも、総理の裏の一声で、権力を傘に裏で動いた多数の人物がいたことは火を見るより明らかです。(総理はうまく逃げ切ったと思っ

ています) それは親友とは言いません。もし親友であるならば、「いくら貴方の願いでも、それをやったら私だけでなく親友である貴方にも疑惑がかかり、大変な迷惑がかかることになるからそれだけは

断念してくれ。」と普通はいうでしょうね。

証拠がないと国民や野党を欺き通して、国民の血税「百七十六億円」を一人の友人の為に使った総理を、いくら外交に長けていても、決して許し、また誇ることなどできません。

ゴーンさんではないですが、恐らく総理引退後、ほとぼりが冷めた頃の報酬という時間差受益の申し合わせがあるのではな

いかと疑いたくないです。私どもは亡くなつてから三十五日間は閻魔大王の裁きを受けません。裁きが受けた時に、すかして「思に決した」といふことがないよう「思ひついで」に「戒めたいものは戒めたい」



当山研修旅行 岡山：書寫山圓教寺 平成30年11月7日

寺檀一如を

弘長寺護持会

会長 武田民三

明けましておめでとうござ
います。

護持会の皆様には、お健や
かに新年をお迎えのことと、
お慶びを申し上げます。

平成の年を閉じる年となり
ます。

それは昭和の半分の期間で
はありますが、中身は格別な
様相であり、激しい変化の時
代で在ったとも言えるのでは
ないでしょうか。

或る大手の証券会社が倒産
し、その社長が「社員は決し
て悪くありませんから……」
と号泣しながら記者会見をし
たのを覚えていらつしやいま
せんか。

ところで、お節介をするこ
とに気が引ける時代とも言わ
れています、利他的な文明

に変わらなければ、そのよう
な世間では、なかなか生きる
のが難しいのではないかと。



しかし、平凡な生活の中か
らは逸材は生まれれないと言わ
れます。(体験に乏しい人間
は、知らない人生が多いから
情緒にも欠ける)

またイノベーション(新機
軸)も期待ができないと思っ
たのです。

そこからは、常識に乏しい
人材が多くなってくるのでは？
広辞苑には、常識とは「健
全な一般人が共通に持つてい
る、または持つべき普通の知
識や思慮分別」とあります。

このことは、政界にも財界
にも多く存在しています、
宗教界にもまた見受けられる
ように思っています。

お釈迦様の言葉に「自灯明」
とありますが、この教えを自
覚しなければ世間を明るく照
らすことは難しい。

自分の内に在る「光」を自
覚し、それを灯し照らし出す
ことが求められているのでは、
と思えます。

そこからは、「自分の尊い
存在」を知り、自分に対して
「有り難う」と言える。

それが言えるか否かでは、
人生の結果に重大な違いが生
まれると教えられています。

辛いことが多いのは、自分
の魂のレベルが高いからと自
覚して、苦しんでいるのでは
なくて学んでいると悟らなく
ては、とも示されています。

この世は魂を磨き、レベル

アップするためには在ると悟る
ことだと理解すべきでは？

菩提寺の尊さは、伽藍の立
派なことだけではなくて、そ
の寺が檀家にとつて、どのよ
うに活かされているかが最も
重要であると思っています。



或る宗教家が「歌を忘れた
カナリアの如くに檀家を忘れ
た住職も」と述べています。

(我が菩提寺「弘長寺」では、
近くホームページを起ち上げ
られると伺っているので、檀

家を大切に思っていて頂いていると感謝しています。」
 方丈様からは常々「寺檀和合が第一」とのお言葉を賜っています。

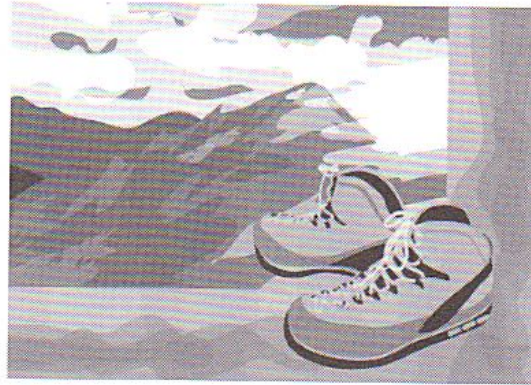
佛教界でも変動が激しく、檀家離れが多くなりつつあり、寺院の存立が危惧されています。

そこには多くの原因となる事案が存在しているからですが。

抹香の漂う寺院も大切にありましようが、さらに多面的で多目的な、多くの人々の集まり来る寺でありたいと念願し、期待しているところでありますが、檀家あつての菩提寺でなければと思っているからであります。

BSプレミアムの「百名山を巡る」で、その登山家は「高い山に登るには、ゆっくりと確実に脚を運ぶことが大切」と話しています。

人生も長い旅をゆっくりと、確実に歩みを進めることが重要なことではないかと思っています。



新しい年号を迎え、どうか我らが菩提寺「弘長寺」が将に「寺檀一如」の相となり発展するよう皆様と共に精進してまいりたいと思っています。

よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

合掌

欠かすまい脳への刺激

弘長寺護持会副会長

内田 松寿

あけましておめでとうございます。

昨年の世相を表す漢字は、自然災害が相次いで日本列島を襲ったことなどから「災」でした。

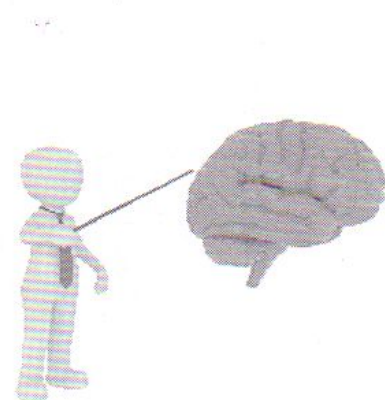
何にでも「平成最後」がつく昨今、いよいよ五月から新年号がスタート。新たな時代の幕開けです。内外ともに前途多難な問題を抱え、慌ただしい一年になりそうです。

年を取ると確かに少しずつ記憶力は低下し、体力は衰えていきます。

だが同時に、その年齢になつたからこそ見えるものや感じられるものもあるはずです。

何事もものは試し、とにかくやってみよう。その蓄積が人生をより豊

かなものにしてくれると思います。



最近、脳の活性化にはドーパミンの生成が必要で、それには新しい刺激や、感動が欠かせないということを目にしました。

そこで少し調べてみました。

このドーパミンは、「神経伝達物質」と呼ばれ、心や体の健康をつかさどるとても重要な役割を担っています。

ドーパミンが不足するとストレスにより不適応な行動をとったり、認知症などの要因になったりするように

です。

ドーパミンを増やすためには、適度の運動や趣味など自分の好きなことに夢中になることや、肉や魚、豆などのたんぱく質の摂取とともに栄養のバランスを考えた食事をとることなどです。

こういったことにより、ドーパミンの分泌を増やすことができるそうです。

自分にあった方法を見つけて取り入れてみるのもよさそうです。

今年では体力維持と地域社会等での活動にドーパミンを意識しつつ熱意を持って頑張ろうと思います。

お寺のご隆昌とお檀家皆さまのお幸せをお祈りいたします。

合掌

明けまして

おめでとうございます

副会長 内田磯弘

平成三十一年を迎え、護持会会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は四月に県東部で地震が発生し、七月には広島・岡山で甚大な豪雨被害も発生しました。



当地においては有り難いことに平穏無事でありました。

が、会合等で様々な方面の方とお話しますと、特に

観光面で経済的被害が曹洞あつたようです。

県内の地震ということもあつて風評被害にあり、山陽側の豪雨であつても伯備線が不通になつて観光客が来られず、キャンセルが相次いだとか。

直接影響が無くても間接的な被害は広範囲で多額の損害が発生したようです。自然災害の脅威を身近に感じたところでは。

毎年、年初には、一年が平穏でありますようにと願うわけですが、今年こそぜひともそうであつてほしいものです。

今年亥年、イノシシ年です。

中山間で多あり畑ありの地にすむものにとつては、正直なところ憎きケダモノ。

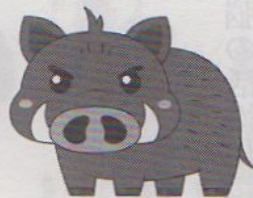
田畑は荒し水路は詰まらせ、所によっては地形が変つたのではないかと思わ

れる程とんでもないことをやらかします。

「地形が変わる」など『山より大きな猪はでぬ』のよるな言い方かもしれませんが、大きな穴を掘つて凸凹にし、道が道で亡くなつてしまふのも事実です。

猪についてのことわざをしらべてみました。

『猪突猛進』『猪武者』などは計画性は無く何も考えず、周囲の状況も見ずとにかく進むだけ。



思考ゼロであまり良いイメージがありません。

変化の激しい世の中。そしてこの変化のスピードの速いこと速いこと。

慎重に考えて行動したいものです。

しかし慎重も度が過ぎれば優柔不断と揶揄されそうです。

わかっではいるけどなかなか決断できない、なかなか行動に移せないというところが多々あります。

何時までもグズグズしてウジウジしていると『猪も七代目には冢になる』のでしょうか。

なんとも難しい世でございます。

お膳について

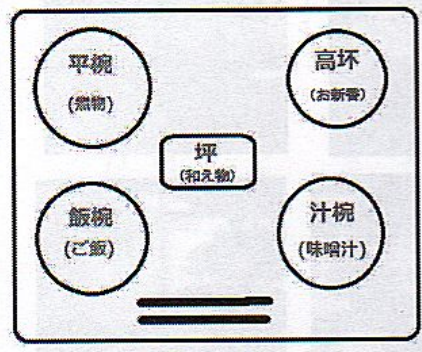
副住職 森田大裕

ご法事やお盆の棚経の際、皆さまのお宅へお邪魔させて頂きますと、きちんとお膳がお供えしてありますが、ときどきお供えの仕方が間違っておられる方が見受けられます。

ですので今回は簡単ですがお膳のお話です。

置き方だけ知りたい！という方もいらっしやるかもしれませ

んが、まずはお椀のお名前を。



※こちらが仏壇側です

まずご飯を盛るのが一番大きな「親椀」、お味噌汁や吸い物を入れる、もう一つ小さい「汁椀」、平たくて大きいのが煮物を入れる「平椀」底が深いのが豆煮や胡麻和え等を入れる「壺椀」、足が付いているのが漬物を盛る「高坏」。

それから忘れがちですが「お箸」です。並べ方ですが、手前左に「親椀」、手前右に「汁椀」、奥側左に「平椀」、奥側右に「壺椀」、中心に「高坏」、そして手前に「お箸」をおきます。そして実は最も重要で、間

違いが多いのが、お膳の向きです。

前述したとおりにお椀を並べて、そのままお供えする方が非常に多いですが、お膳はご霊前にお供えするものですので、仏様に召し上がって頂かねばなりません。

従って、お箸を仏様に向けてお供えしてあげてください。

ちなみにお膳の前身ですが、所謂精進であることが望ましいです。

お肉やお魚はもちろん、刺激物、香味野菜も好まれません。ネギやんにく、にら、らっきょうなどです。

ご飯は少なすぎず多すぎず、お椀を軽く濡らして、中で回して丸く盛ってあげると崩れず形良く盛ることができます。

何事もまず形から。

たかがお膳とは思わないで、ご供養の大切なお供えのひとつとしてきちんとご用意して頂ければ、きっと仏様もお喜びになられるかと思えます。合掌

お知らせ

お願い

●副住職大裕が、七月二十七、二十八両日、広島県三原市へ曹洞宗青年会として災害ボランティアで出かけました。

●ホームページを起ち上げますが、業者日程が混んでいて三月半ば頃になりそうです。

徐々に充実させていきます。

ホームページアドレスは、下記の通りです。

<http://kochoji.akibare.ne.jp>

●盆棚経は全戸（遠方除く）終了いたしましたので、来年はまた、弘長寺地区 から始めます。

●施食会アトラクションは、プ口的落語でした。イスの男性が前に坐られたので、女性が見えずらかったとの声あり、好評の中にも反省点あり。

お知らせ

お願い

今年の幸せを撞いた方々



除夜の鐘豆知識

午前0時をまたいで撞きます。

弘長寺は紅白が終わると同時に撞き始めます。

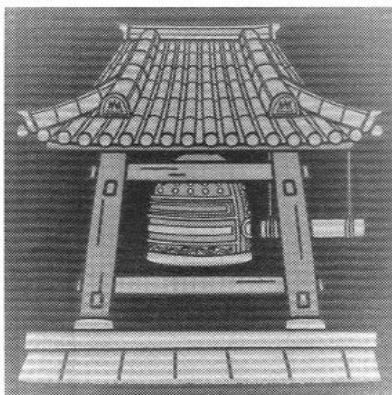
最近では参加者が増えて、十二時半頃には百人回が終わってしまいます。

煩惱の数だけ撞きますが、何故百人かはいろんな説があります、四苦八苦説が一番しっくり来ます。

(四苦) 四×九＝三十六、
(八苦) 八×九＝七十二、

煩惱が多いと四苦八苦するので、

三十六七十二＝一〇八



住職

私は現在、中国管区教化センター布教師を致しておりますが、(今年五月で任期を終えます)現在センターでは、広島RCC放送でラジオ法話をいたしております。

BSS山陰放送では、日曜日朝六時四十五分〜五十分までの五分間。

中国五県の曹洞宗侶の法話です。

その原稿の校閲(校正ではありません)をセンター職員とセンター布教師とRCC担当者が行い、校訂したり、意にそぐわない原稿は送り返して再提出願ったりしています。

私の原稿も何回か放送されましたが、おそらくお聞きになった方は少ないだろうと思いますので、少し加筆をしたその一部を載せます。

2018/5月作成

今日は、

「絶対にわからないことを、時には考えてみるのも大切」

というお話をいたします。

皆さんも、子供の頃から「いくら考えてもさっぱりわからん」という疑問が起きたことがおありでしょう。

私は中学生の時でした。

それは、宇宙やあの世を含めたこの世界全体はどうやってできたのだろうかということでした。

立花 隆さんの本の中で、『あなたの名前を取り払って、あなたは何者だ? どこから来てどこへ行くのだ? 何のためにここに存在しているのだ?』

そしてここは何処だ? 松江・島根・日本・地球? それは全宇宙や多次元も含めて全ての世界の中でどこに位置するのだ?

そして今は一体何時なのだ?

え、2018年? それは西暦だから、たかだかキリストの生誕以降でしょう。

人類誕生が600万年位前で、地球が46億年前で、宇宙が136億年前の誕生だそうです。

ではそれ以前はどうですか?

つまり永遠の過去から永遠の未来

の中で今という時は一体何時になるのだ?

この、お前は何者で、ここは何処で、今は何時かという三つの疑問に誰も正確に答えられない! そう書いておられます。

お釈迦さまは、このような絶対的な答えのない質問を受けたときは「無記」といって何も答えておられません。

そんなことより今をどう生きるかを考える方が大事だと教えておられます。

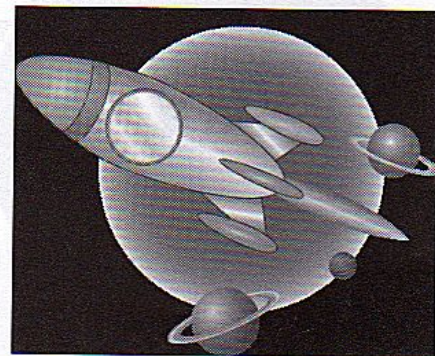
今日はたとえお釈迦様に叱られても、それを考えてみたくなりませんでした。

なぜかといえば、お釈迦さまの時代と違って今、こんなに宇宙科学が進歩したではありませんか。

月に人類が到着し、現在も宇宙ステーションが存在し、火星に人が住めないかと調査が始まっています、中国も月の裏側に着陸し、宇宙人からの電波らしきものもキャッチされているといえます。

地球は24時間で自転、365日で公転していますが、一体だれ

がこんなに正確に回しているのでしょうか、宇宙生命のそのエネルギーが神と呼ぶべきものでしょうか。



キリスト教では、全知全能の神がこの世を、つくられたそうです。

その神がもし全知全能であるならば、何故人間などという不完全なものを作ってしまったのか? こんな不完全なものしかつくりえないということは、神が全知全能ではないという証明ではないでしょうか。

これらの疑問に答なんて出ないことはわかっています、この地球の命があと2億年という学者もいます。

だから時には星空を眺め、人や、大自然や、宇宙のいのちに思いをいたすことは、ちっとも無駄ではないような気がしています。(了)

拝登 書寫山圓教寺

護持会研修旅行

住職

三十年度は天台宗西の本山、姫路・圓教寺への拝登でした。

朝から天気も快晴で、当日の旅行も九割は大成功と思いきや、何と大事故のため、九号線に車が一台もいなかったのです。

大渋滞の中、決して通るはずのない大東一忌部線に出ない大回りとの末二時間遅れでやっりと高速に乗れました。

それ故圓教寺様での昼食も遅れ、姫路城の由、見学も、帰りの時刻も、そのまま予定より二時間遅れでした。

でも、その鬱憤を晴らすか、ように帰るから、内では酔い、カラルオテの大会で盛り上がり、大盛況でした。

